

# 令和3年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院大阪梅田校

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性を見つけ、才能を開花させる学校。
育てたい生徒像	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特化型コースで「好き」や「得意」を追求する生徒。</li> <li>2. 自ら考え、自ら学ぶ力を身につけ、何事にも主体的に行動できる生徒。</li> <li>3. 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒。</li> </ol>

本年度の重点目標	1 教育の質の向上（カリキュラム・マネジメント）と非認知能力を育む探究型授業の推進
	2 グローバル社会で活躍するための英語力の向上と未来を生き抜くための21世紀型スキルの育成
	3 特化型教育を実現する充実の環境整備と保護者や地域社会との積極的な連携による開かれた学校の実現

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

- ※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
- ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。
- ※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。

- ※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。
- ※ 学校関係者評価委員会は、元兵庫県教育次長・保護者代表・卒業生代表で構成した。

自 己 評 価					年 度 評 価		
年 度 目 標		年 度 評 価			年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	現状> 主要科目における習熟度別クラス編成やコース授業の設定はできている。一方で習熟度別クラス編成には限界があるため、より個別最適な学習方法を検討する必要がある。探究学習の更なる充実も必要である。 課題> ・個別最適な学習の導入 ・コースや授業の整理 ・探究学習の充実	個々の成長を可視化できる仕組みを構築する。	定期的な確認テストを行い、効果を測定する。	・定期的な実施ができたか。 ・個々の効果測定ができたか。	・教科によりバラツキはあるものの定期的な実施ができた。 ・効果測定には体制の構築が必要である。	B	探究学習をより充実させることにより、知識・技能の習得と主体性・多様性・協働性といった非認知能力の育成がバランスよく育まれるよう、これらのことを意識したカリキュラム・マネジメントを継続して実施していく。 またICT教材の新たな導入等により、現状の習熟度別授業では展開できない、より個別最適な学びを推進していく。
		実施している授業の定期的な見直しと再検討。	定期的な授業参観及び授業アンケートを実施し、状況を確認する。	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックの実施ができたか。	・定期的な実施ができた。 ・リアルタイムなフィードバックまでには至っていない。	B	
		21世紀型スキルを意識した授業改革を進める。	各教科へのアクティブラーニングの導入とPBL型授業の充実を図る。	・主体的・対話的で深い学びが実践できたか。 ・主体的に学びに取り組む態度の育成が図られたか。	・大半の授業において様々な工夫をした取組が実施できていた。 ・生徒の主体性が向上した。	A	
2	現状> 生徒に興味関心を持たせ意欲的に取り組めるよう授業を工夫し、生徒の英語力の向上に努めた。更なる英語力の向上に向け、今後はICT教材の効果的な活用などの質的な改善を図ることが課題である。 課題> ・英語の授業の更なる充実 ・ICT教材の効果的活用 ・英検合格者数の増加	英語4技能の習得を目的とした独自の英語教育を実現する。	英語授業の増加と4技能に基づいた担当指導教員の配置。	・英語力の向上が図られたか。 ・効率的な授業展開ができたか。 ・生徒の満足度が向上したか。	・バランスよく4技能が向上した。 ・生徒の満足度が向上したとは必ずしも言えない。	B	生徒の学習意欲を喚起させる教材や形態を工夫した授業を実践することで、生徒の英語力を向上させることができたが、必ずしも生徒の満足度につながっていないことから、生徒個々が自分の成長を実感できていないことが課題である。 次年度は、量的な改善ではなくICT教材の効果的な活用等の質的改善を推進する。
		補講等の時間をつくり、自主的に学習に取り組める環境を推進する。	朝学習での単語の学習時間を確保し、放課後対策講座、英検受験指導を実施する。	・継続的な活動ができたか。 ・生徒のニーズに合わせた講座の開設ができたか。	・朝学習での単語の学習時間を十分には確保できなかったが、放課後補講は複数のレベルで継続的に実施することができた。	B	
		生徒個々の目標を設定し、合格までの計画的な対策を図る。	年度当初に一人別の目標設定を行うとともに英検全員受験を実施する。	・適切な目標の設定ができたか。 ・英検全員受験は実施できたか。 ・合格までの計画的な対策ができたか。	・適切な目標設定ができていなかった。 ・英検全員受験は実施できたが、目標とする合格実績は出せなかった。	B	
3	現状> 昨年度に引き続き各コースの特性に合わせた教室配置と備品等も含めた環境整備に努めてきた。今年度もコロナ禍が継続し、保護者を含め外部の方を校内に招くことができなかったが、昨年度よりはオンラインを活用した活動を増やすことができた。 課題> ・充実した学びの環境を提供 ・外部機関と連携した企画提案 ・保護者への情報公開	コースの特性に合わせた環境の整備と充実した教育備品の設置を進める。	ICT教育・オンライン授業の更なる充実のためのWi-Fi環境の整備を進める。	・ストレスなく授業展開できたか。 ・テクノロジーを活用した効率的な学びが実現できたか。	・時間や場所によってバラツキはあるものの、無理なく実施ができていく。	A	コロナ禍であっても、教育活動等を継続する上でのICT・オンライン環境は整備がされてきた。一方で将来的な教育活動の充実に向けて、環境整備を今後も継続して実施していく必要がある。特に情報機器については、定期的な更新や入れ替えを通して、最新機器で教育を展開できる環境を整備する。また、外部との連携による対外的な発信についてもより一層充実をしていくことで対外的な認知度向上にもつながっていくと感じる。
		オンラインを活用し、大学・企業・地域と繋がる仕組みを構築する。	オンライン型の連携授業やイベントを企画・実行し、対外的にアピールする。	・オンライン型のイベントの実施ができたか。 ・生徒の活動をアピールできたか。	・遠隔地からの連携授業や独自のイベントをオンラインで配信することができ、アピールすることができた。	A	
		生徒の活躍をリアルタイムに配信できる仕組み（ICTの活用）を作る。	ICTツールやオンラインを活用した情報配信と保護者会の定期的な開催に努める。	・保護者会、情報配信の定期的な実施ができたか。 ・ICTの活用が十分にできたか。	・メールやClassiによる定期配信ができた。 ・オンラインを活用した保護者会や説明会を複数回実施できた。	A	

学校関係者評価
実施日 令和4年9月16日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒個々に応じた教育を推進し、成果を上げている。</li> <li>・専修学校クラーク高等学院大阪梅田校を卒業後、大学や専門学校等に進学した後、またその後の社会ではもっと大きな集団に入っていくことになる。その中で自立した社会人として生きていくのに必要な力、土台を在学中に養うことが必要である。</li> <li>・教員と生徒の距離が近く生徒は何でも相談しやすい環境にあり、それは良いことではあるが、教員には優しさや厳しさが必要であるから、生徒の将来の自立に向けて、何でも受け入れるというのではなく、是々非々で対応していく姿勢が必要である。</li> <li>・ICT機器やオンライン環境の整備でコロナ禍でも教育活動は続けられるようになってきているが、対面で行うことの大切さを忘れずに人と人のつながりを大事にして欲しい。</li> <li>・何事にも自ら調べて苦労して身に付けるという経験が少なくなってきた。ICT教材の利用が進んでいるが、それだけではなく色々な教育活動を通して、生徒自らが自主的、主体的に学ぶ姿勢を更に養って欲しい。</li> <li>・周囲が気になる年代だが、人間関係が良好だと自分のやりたいことが決まればそれに向かって邁進できる。</li> <li>・インターナショナルコースで卒業生が在校生に向けて「経験を語る会」を実施しているが、他のコースでも卒業生と語る場を設けて欲しい。</li> <li>・コロナ禍で学校関係者が学校を訪れる機会が減少した。今後の社会の感染状況にもよるが、感染対策を十分行った上で各種発表会等案内してもらいたい。</li> </ul>